

【特集二】

「シーボルト事件連座の阿蘭陀通詞、稲部市五郎の新出史料」

趣旨説明

長崎市長崎学研究所

特集二「シーボルト事件連座の阿蘭陀通詞、稲部市五郎の新出史料」は、長崎市長崎学研究所が平成二十九年（二〇一七）二月に取得した「阿蘭陀小通詞末席稲部市五郎病死二付死骸御見分取扱控」を用いた、調査研究活動の成果公開を主な目的として行うものです。

本特集の主人公として位置づけられる、阿蘭陀通詞の稲部市五郎という人物は、文政一年（一八二八）に発覚したシーボルト事件の際、シーボルトに日本地図を受け渡した罪を問われ、上野国七日市藩（現在の群馬県富岡市）にて永牢（生涯牢屋に閉じ込められること）の身となりました。

稲部は天保十一年（一八四〇）に、七日市で病を得て、五年の生涯を終えることとなりますが、死後、大正年間に至って、群馬県医師会を中心とした、群馬県内での顕彰活動が行われ、昭和六年（一九三一）には、稲部に関連する史跡等をテーマとした絵葉書の出版や、稲部が永牢に処せられていた跡地に顕彰碑が建立されるなどしています。

シーボルトから阿蘭陀通詞としての深い学識を評価されるとともに、シーボルト事件において日本地図受け渡しのキーパーソンともなった稲部市五郎ですが、彼の生い立ちやシーボルト事件前後の動向、そして七日市藩での永牢から死去に至るまでの活動については、これまで史料上の制約もあって、詳しく明らかにされていない部分

が存在していました。

このたび、長崎市長崎学研究所では、稲部に関する新出史料の取得を一つの契機として、昨年一月、東京大学史料編纂所共同研究員のイサベル・田中・ファンダーレン先生のご指導のもと、群馬県内での文献史料調査とフィールドワークを実施しました。

その結果、調査対象とした七日市藩政史料やオランダ商館長日記の中から、稲部市五郎及び彼の周辺人物に関連する記述を複数確認することができました。それらの調査研究で得た結果は、本特集の中においても重要な要素として組み込まれています。

本特集の内容構成としては、①イサベル・田中・ファンダーレン先生による論文「阿蘭陀通詞稲部市五郎について」、②研究所職員藤本による史料紹介「阿蘭陀小通詞末席稲部市五郎病死二付死骸御見分取扱控」、③「附録」として、二人の執筆による稲部市五郎関連史料の翻刻文、以上の三部から成り立っています。

長崎市長崎学研究所では、今回新たに確認された史料や研究成果が、稲部市五郎個人の研究に寄与するのみならず、阿蘭陀通詞やシーボルト事件に関する研究の活性化につながることで、長崎学及び洋学史研究の発展に少しでも貢献することを願ってやみません。

最後になりましたが、本特集の実施にあたっては、研究論文の寄稿に加え、群馬県内での史料調査にも同行いただいたイサベル・田中・ファンダーレン先生、稲部市五郎の墓石調査を快諾いただいた天台宗蛇宮山金剛院の榎本晃英住職、関連史料及び文献の情報提供をいただいたシーボルト記念館の織田毅館長、関連史料の調査対象施設である群馬県立文書館など、多くの方からお力添えをたまわりました。この場をお借りして深くお礼申し上げます。



【和蘭通詞肥州長崎稲部市五郎種昌之墓】
 (群馬県富岡市、天台宗金剛院境内)



【稲部種昌先生碑】
 (群馬県富岡市、稲部市五郎永牢跡地)



【天台宗金剛院】
 (群馬県富岡市、右端下の石柱には「稲部先生ノ墓」と刻まれている)